
魂には届かない。 [千文字小説]

尖角?

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魂には届かない。 「千文字小説」

【NZコード】

N9275X

【作者名】

尖角？

【あらすじ】

好きな人と逢えるかどうかわからない死後の世界。 そんな世界を想つて死ぬ彼の姿。

「君を好きだった ずっと想つていた」

それだけは、言いたかったんだ。

君と俺とは、いわゆる画想い。

それは、周りの誰もが知つていたし、俺達には当然のことだった。
しかし、そんな想いを言葉にしたことは、皆口にした時と、君が死
んできたの2回だけ。

なぜそれまでに、もっと言わなかつたのだろう？

君は、「言わなくてもわかつてゐる」と思つてゐるだらう。

けれど、それを口にしていなかつたことの悔しさが、今込み上げ
てくるんだ。

「くつそーくつそー…………とね。

君は死んでいて、俺は生きている。

例え、悔やんだとしても、君を想つたとしても、この現状は変わらないのに。

なぜ、君が先に死んでしまったのだろう？

僕が先に死んでいれば、君を見送る必要なんてなかつたのに。

悲しむ必要なんてなかつたのに、君は僕にそれを強要したんだ。

人生とは悲しいものだよ。

現代人が死ぬには、ほとんどが“ガン”にならなければ……。

そう、 、 、 そんなことは知っていた。

けれども、自覚があつたわけではない。

だから、君が“ガン”と宣告された時には驚いた。

けれども、君を見ていて、本当に元気だったし、楽しそうだったから、安心しきっていた。

だけど、医者は言つたよ。

「末期です」・・・とね。

悲しいかな、これが現実と言つものだよ。

医者が言つた途端、君の調子は“ガターン！”と崩れていった。

「ああ、私死ぬのね」これは君が死ぬ数日前に発したセリフ。

戦うことのできる体力まで失われた君、

俺達に、希望なんて言葉は無くて。。。

「なんで、君じやなきやダメなんだ？」

「俺が不幸にしたのか？俺と出会わなければよかったですのか？」

「俺が不幸にしたんだ。 そつだ、絶対に」

「へつそーー！ へつそーー！ へつそおおーーー。」

そう叫び続けた。

どれだけ叫んでも、君の心には響かないのに。

どれだけ愛していくても、所詮は届かないのに。

僕も病になつたよ。

鬱といつ、全てを萎えさせむ病氣にね。

何もかもが嫌だ。

君がいなければ、立ち上がることすらも面倒に感じる。

だつて、君がいないのに立ち上がつたところで、そこには何があるのか？

俺には分からぬ。

君が全て、だつた俺には、既に理解などできない。

だから、俺は気が付くんだ。

俺が死ねば、君に逢えるかもって。

だって、じつこの世界で、君に出逢えたんだ。

所詮、世界は狭いものさ。

だったら、向こうの世界でも、君に出逢えるぞ。

そう思つたから、僕は死ぬことを決める。

逢えるかどうかわからない君のためにね

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9275x/>

魂には届かない。 [千文字小説]

2011年11月24日20時55分発行